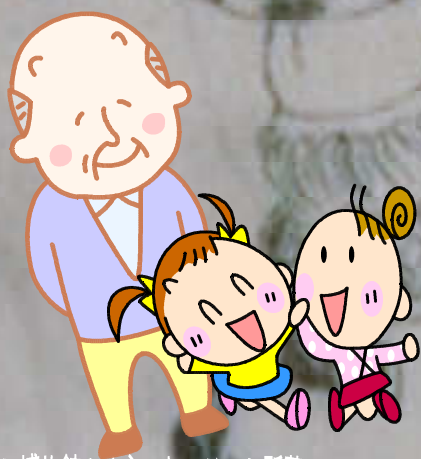


うしくでびっくり!

NO.46

ももちゃんにはなす

ごんぐんぐんせつ



電子博物館みゆネットふじさわ所蔵
「絵本写宝袋武者尽」より

おくの地区社協
さく いいだあきお

ヤッホー
ヤッホー
ヤッホー



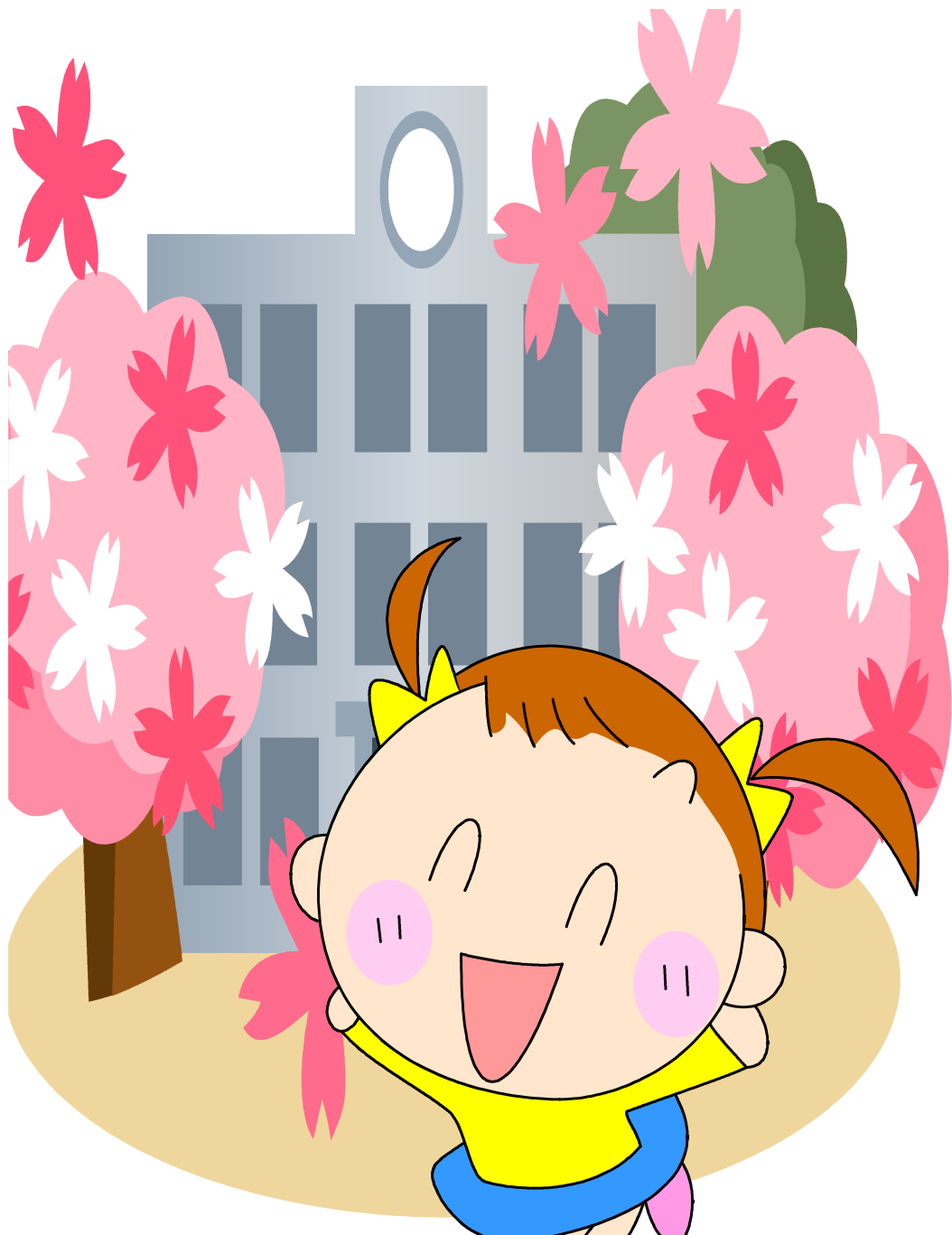
じゃじゃじゃーん。

これからえほん

「かまくらごんごろう
でんせつ」

の はじまり はじまり。

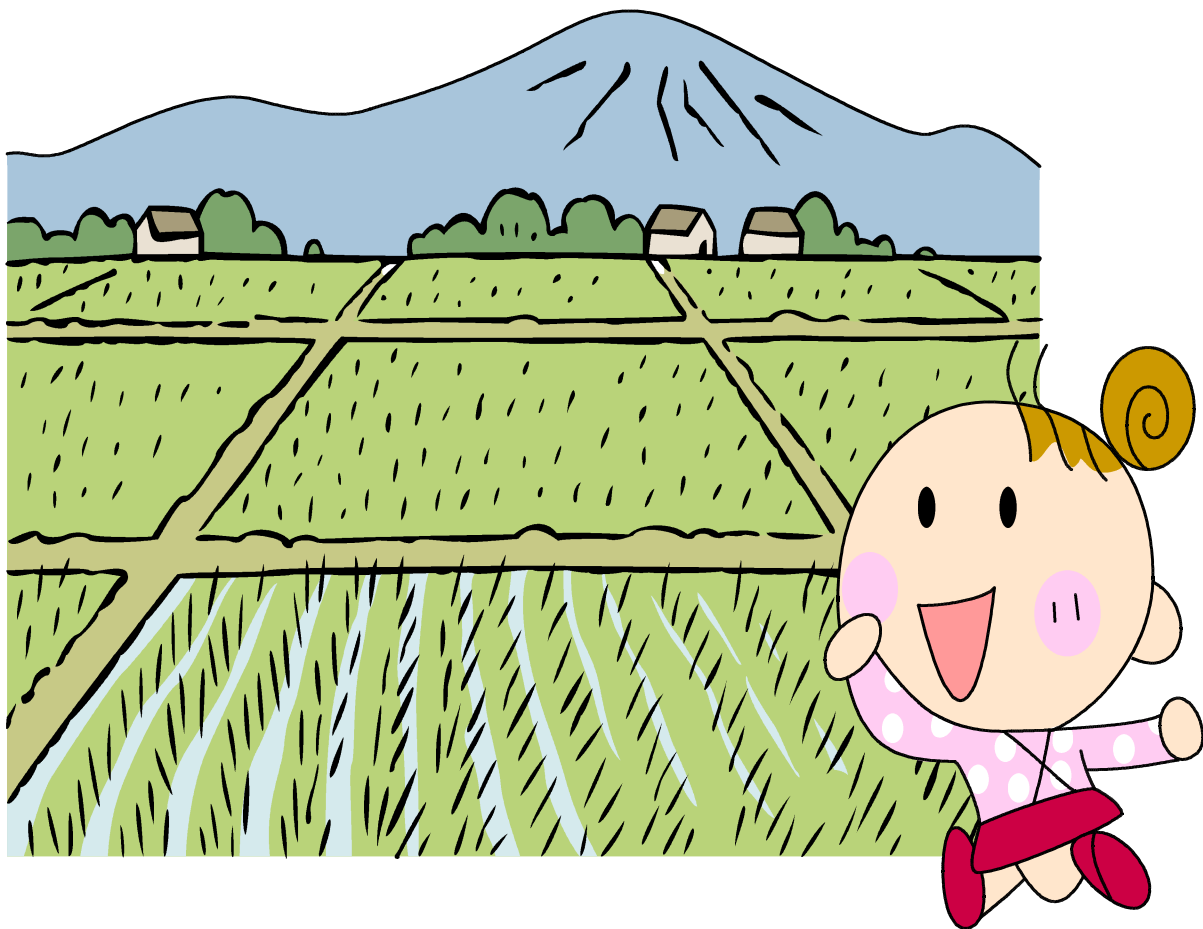
なっちゃんは、おくののし
ょうがくせい。



いぜん、とうきょうにすんで
いるしんせきのももちゃん
に

「おくののすばらしいところ
をあんないしてね」

と たのまれていた。ももち
ゃんは、いなが、だいすき。



そして、ももちゃんが、やってくることに・・・。

「あ！わすれてた」
となっちゃん。びっくり！
どうしよう。

こまったなっちゃん、おじいちゃんにきいてみた。ものをよくしっているおじいちゃんが、だーいすき。

あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。
どこかな？



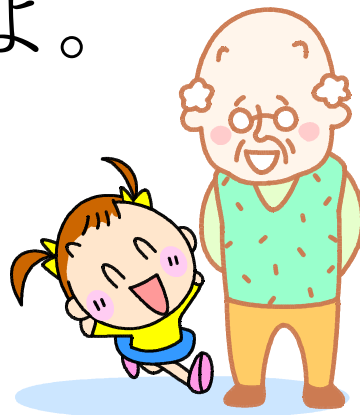
わたしは、なぜなぜで一す。

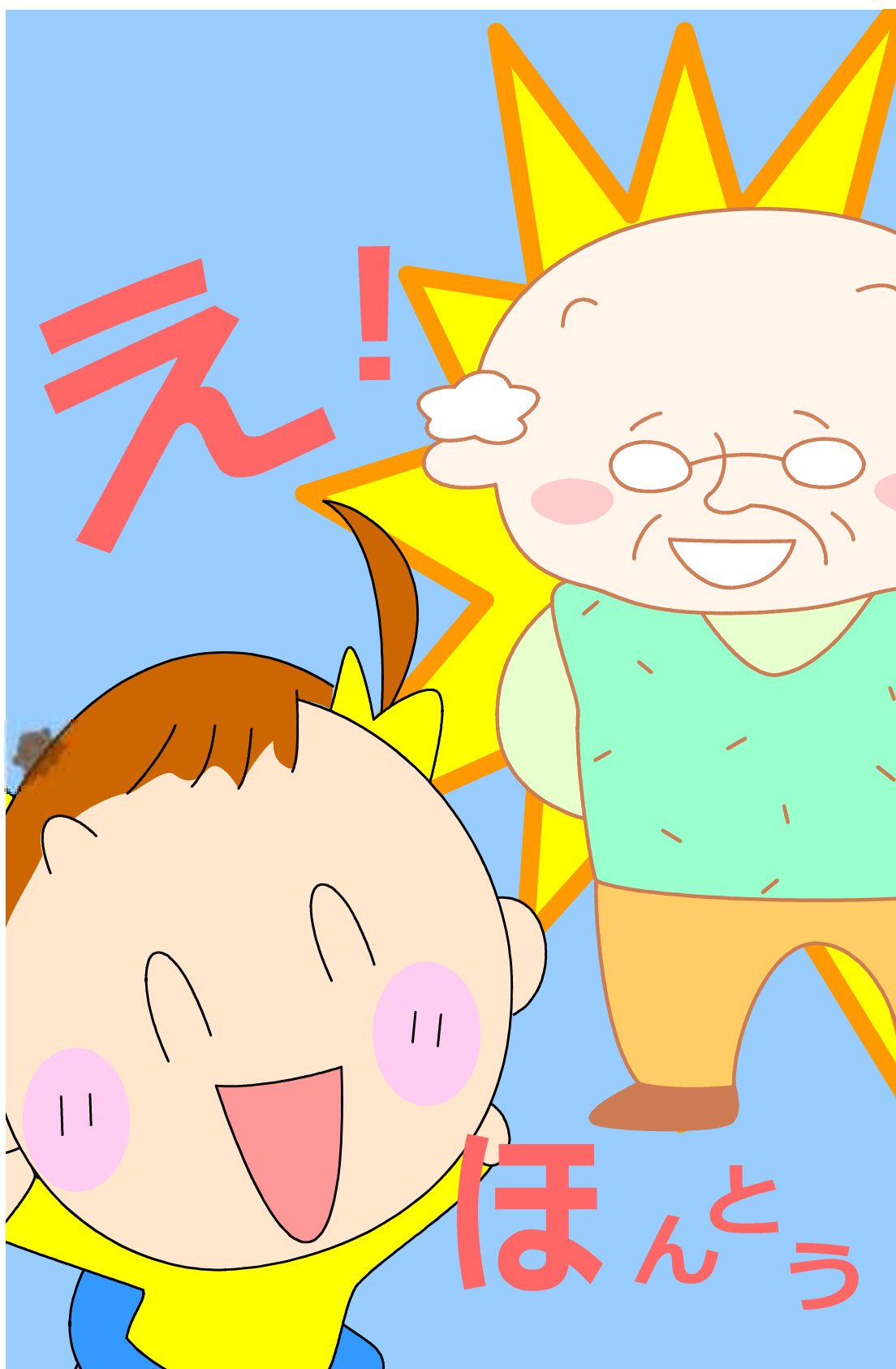


「そうだな・・・。おくのの
すばらしいところね・・・。
おくのにつたわるかまくらご
んごろうでんせつかな！

「どんな でんせつなの？
おしえて！」

くわしいことは、あきおさ
んにきいてみるか。いっしょ
にいってあげるよ。





なっちゃん、おじいちゃん
と、あきおさんにあって、で
んせつについてきいてみた。

「あ！そうそう、そうだった
わ。まえにしらべたことがあ
ったわ」

と なっちゃん、おもわずに
っこり。

でも、しんぱいだったので
いくまえに あるいてみた。
やっぱり、よくわかっていな
かった。しかたなく、まよい
まよいあるいていると、

「たすけてー」
という さけびごえが、きこ
えてきた。

あたりをみまわしてみると、なんとアリが、みずたまりで、おぼれていた。



「あ！かわいそう」
となっちゃん。いそいで、
すくいあげた。

「たすかった」
と アリさんは、よろこんで、
「このごおんは、かならず、
おかえしします」
と いってさっさいった。

こうして、したみは、おわ
った。

やくそくのひ。ももちゃん
が、やってきた。でも、なっ
ちゃんは、ふあんだった。し
たみで、みちは、わかったが、
どうせつめいしていいかわか
らなかったのだ。

あんないは、408 ござ
んのコス
モのガソ
リンスタ
ンドから
はじめる
ことにし
た。もも
ちゃん、
わくわく
どきどき。



すると、スタンドちかくに
かんばんがたっていた。



かんばんには、こんない
ような**ぶんとちず**が、かいて
あった。

このかんばんをみて
「たすかった！」

と　なのちゃん。おもわず、
ホッ。ぶんをよんでみると

鎌倉権五郎伝説　権五郎は
平安時代後期におきた後三年
の役で活躍した若武者。片目
を矢でいられながらも戦った
という伝説が残っている。16
歳でこの地で亡くなった。里
の人が、深く悲しみ墓碑を建
立した。

と　かいてあった。したに
ちずもかいてあった。これだ。

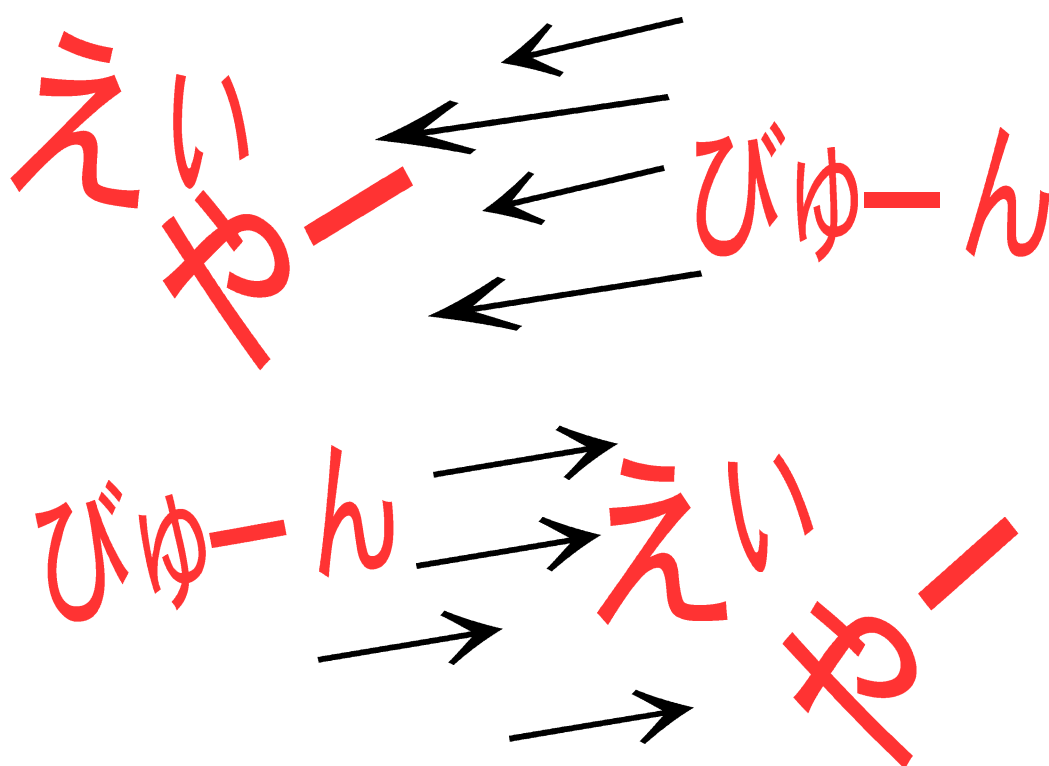


「このちずのじゆんに、まわって
みようか」と なっちゃん。
「いいわね」 と ももちゃん。

①しまだだいのたたかい

あらそいをおさめて、いき
ようようとかまぐらにかえる
とちゅう……。てきのとり
みやさぶろうにしまだだいで、
そうぐう。すくないにんずう
のгонごろうぐんが、とりみ
ぐんとたたかいに……。

さあ、たいへん。さあ、どう
する、どうする **ごんごろう**？
と、おもったら、**ごんごろ**
うのめいれいのもと、いちが
んとなって、おうせん！



はげしい たたかいに
なった。**や**が、とびかうな
か、ごんごろうは、**まえにま**
えにすすんでいった。

すごーい

そのとき、1ぽんのやが

びゅーん

びしっ

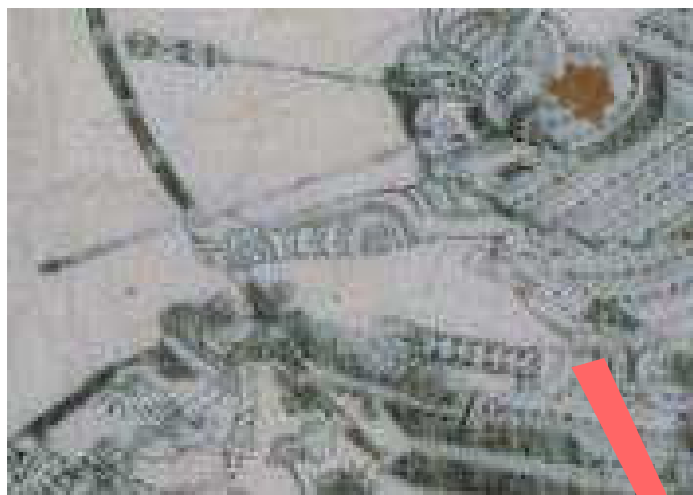
ごんごろうの みぎのめに
めいちゅう。

いたたた！

それでも ひるまず、
まえにまえに

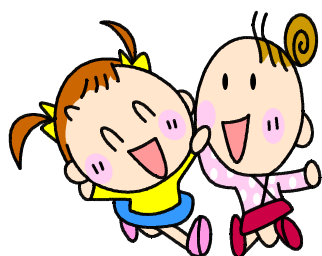


とりみぐんをしまだのさ
か（あかさか）まで、おいつめ
て、たい
しょうを
うちとつ
た。もも
ちゃん



びっくり

そんなひとが、ここにいたんだ。



すごーい！

さかをのぼっていくと　こ
んなかんばんがあった。



たたかいで、さかみちがあ
かくそまったのであかさかと
よばれるようになったんだ。

あれあれ、どうしてかまく
らいどうってかいてある
の？

ここは、やく1000ねん
まえからあるこどう（古道）だ。
れきしとでんとうのあるみち
だ。けしきもいいよ。

さらにすすむと、

③



と いうかんばんが、あった。

ごんごろうが、けがのてあてをするばしょをさがしていると、しみずのわきでるいけをみつけた。ここで、めをあらい、かえりちをおとしたんだ。

※おみたらしとは「御手洗」で、神社の手水舎^{てみずや}のように手や口^{て くち}を清める^{きよ}場所^{ばしょ}のことだよ。

のちにこのいけは**おみたら**
しのいけとよばれるようになった。そして、このふきんは、
あかい（赤井）とよばれるようになったんだ。

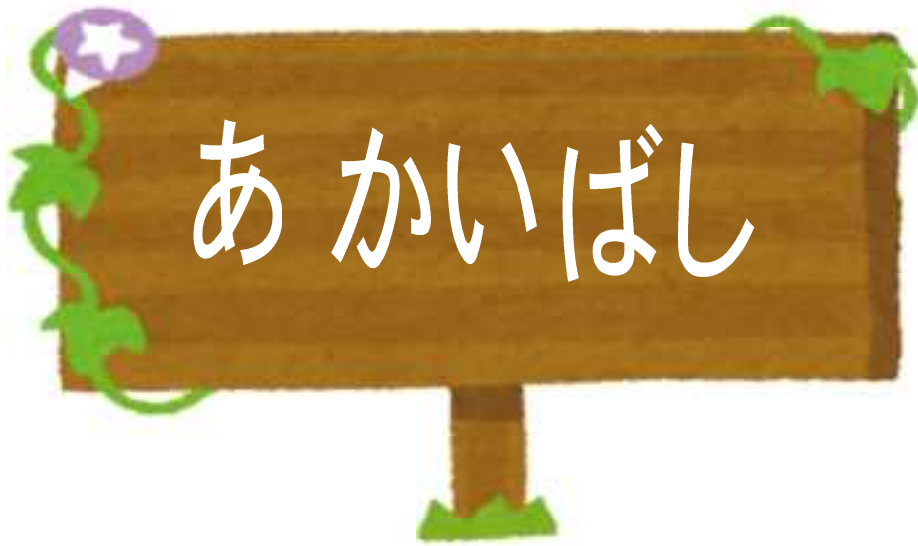


おみたらしのいけ
(いまは、みずがないよ！)



ちかくに

④



と いうかんばんが、あった。

ごんごろうは、**おつとがわ**
の**あかいばし**のたもとで、や
をぬいたんだ。

けらいの**ためつぐ**が、**め**に
ささった**や**をぬこうと かお
にあしをかけた。すると

「ぶしのかおを どそくで、
ふむとは、なにごとか！」
と いかった。

ためつぐは、あやまって、
ひざで、おさえて やを や
っと ぬいたんだ。

ぶしのほこりをもっていたんだ。すごい！

ぬいたやは、ちかくのふど
うそん (矢の根不動尊) におさめら
れた。

⑤





さらにすすむと

⑥



と いうかんばんが、あった。

やどがあるとかつらむら (桂
村) にむかったごんごろう。お
つとがわにかかるあかいばし
をわたって、きゅうなさかみ
ちをうまのせに もたれなが
らのぼっていった。

けがと、てきをうちはたし
たあんしんかんで、ゆめうつ
つで、やっとさかをのぼりき
った。

のちに
このさ
かは、う
つつざか
とよばれ
るようにな
った。



やっと、よるかつらむ
らにたどりつき、やどを
もとめて、かつらがわの
むこうのしょうでんじ（聖
伝寺）をめざした。とちゅ
う、かつらがわにかかる
はしに・・・。

⑦

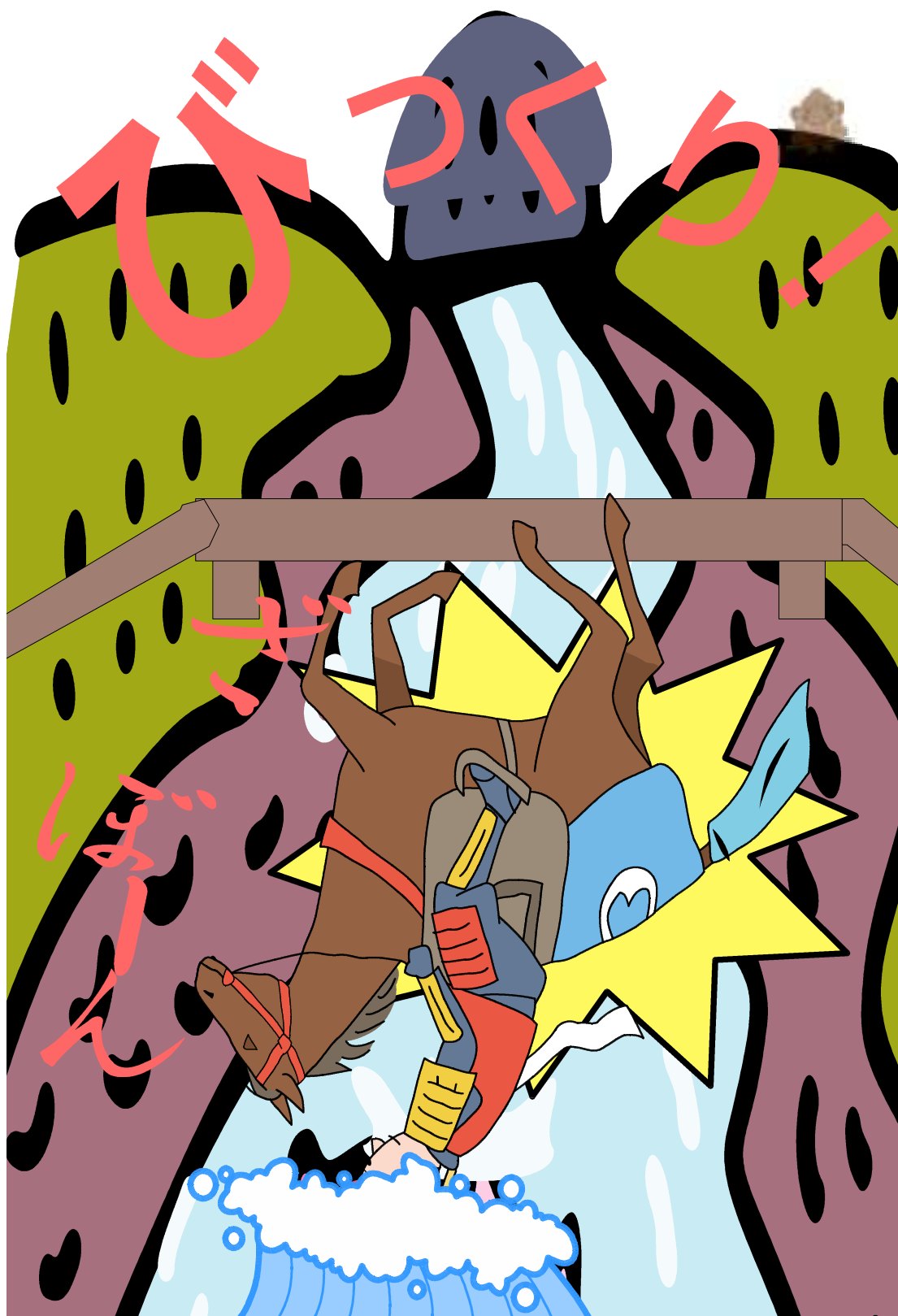


と いうかんばんが、あった。

ここにかかっていたま
るきばしをうまにのっ
て、わたろうとした

そ・そのとき
あ！

うまのあしが、
するっと すべって



かわに おちてしまっ
た。

ばたばた
ばたばた

なんども はいあがろうとし
たが、ち
からつき
そのまま
しずん
でしまっ
た。



かつらがわ

このはなしを きいたさと
のひとたちは、ふかくかなし
み・・・



それが、ここだ。

⑧



ももちゃんは、ごんごろう
が、つよくてやさしく ほこ
りたかきおとこだということ
が、よくわかった。

さらに、いまでもあかさか
・うつつざか・おみたらしの
いけ・あかい
というちめい
が、のこって
いたり、おは
かもつくられ
ていることに
びっくり！

(なんと、ごんごろうが
まとっていた よろい・か
ぶともよしだくに ほぞんされているそうだ)



ももちゃんまたまた、



びっくり!

でも どうして、おくのの
ちにごんごろうでんせつがあ
るのかな？

と ももちゃん。あきおさ
んが、こたえてくれた。

「それはね。ごんごろうがか
まくらかいどうをとおって、
きたことや、いろんなひとが、
ここをいききしていたからな
んだよ。

「そうか。なるほど！」
ここにきてよかった。と も
もちゃん。なっちゃんに
「ありがとう。おもしろいで
んせつおしえてくれて」
と おれいをいってかえって
いった。

なっちゃんは、やっぱり、
ごんごろうは、おくのたか
らものなんだ。と おもった。

でも、ふしぎだな？

かんばんがあって、とって
もよかったけど、いったいだ
れが、たててくれたんだろう
・・・。



さて、つぎは、なにをしら
べようかな？

あれあれ？「すごーく、たのしかった」と なぜなぜくん。
つぎのひみつをもとめてスキップしながらかえっていった。よ
うせいも にこにこしながらかえっていった。



またね



(さんこうしりょう)

牛久むかしばなし三「鎌倉権五郎影政」